

【大腸がん検診精度管理5指標】(令和4年度)

単位 %	市町																												検診機関						
	金沢市		七尾市		小松市		輪島市		珠洲市		加賀市		羽咋市		かほく市		白山市		能美市		野々市市		川北町	津幡町		内灘町		志賀町	宝達志水町	中能登町	穴水町	能登町		成人病予 防セン ター	予防医 学協会
検診実施方法	集団	個別	集団	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別	集団	個別
対象者数(人)	178,045		19,598		40,137		9,120		4,889		24,929		7,983		13,352		44,612		19,334		20,376		2,410	15,514		10,645		7,359	4,877	6,457	2,944	6,081		128,628	128,628
受診者数(人)	2,083	9,177	1,211	3,261	233	577	42	437	1,814	117	507	161	796	386	1,586	1,307	1,442	95	951	944	275	823	593	836	238	581	479	503	254	332	163	10,888	7,855		
受診率	1.2	5.2	6.2	8.1	0.6	6.3	0.5	8.9	7.3	0.5	6.4	2.0	6.0	2.9	3.6	2.9	7.5	0.5	4.7	4.6	11.4	5.3	3.8	7.9	2.2	7.9	9.8	7.8	8.6	5.5	2.7	8.5	6.1		
要精検率	4.4	5.0	5.5	5.3	5.0	6.0	5.9	7.2	5.4	5.8	5.7	8.7	4.0	7.2	5.1	6.5	4.4	5.7	5.8	6.4	6.2	5.0	5.9	3.2	1.5	5.6	4.4	5.3	6.1	5.4	3.8	5.3	5.0		
精検受診率	60.5	72.9	80.6	79.8	100.0	82.6	50.0	73.4	79.2	87.5	69.4	71.1	69.6	77.8	75.2	86.8	81.0	100.0	68.8	81.9	67.9	76.1	81.4	97.6	100.0	65.9	74.4	82.1	71.4	74.3	84.6	70.0	77.6		
大腸がん発見率※	0.110	0.228	0.123	0.176	0.209	0.175	0.491	0.248	0.212	0.467	0.167	0.280	0.262	0.528	0.165	0.373	0.146	0.589	0.200	0.172	0.044	0.096	0.169	0.150	0.189	0.217	0.179	0.283	0.178	0.308	0.493	0.150	0.182		
陽性反応適中度※	2.073	3.861	1.994	2.951	3.175	2.607	6.977	3.548	3.382	5.488	3.239	3.333	5.096	7.481	3.083	5.174	2.469	12.000	3.871	2.486	0.752	1.690	3.082	3.203	4.000	3.214	3.237	4.902	2.759	5.500	6.863	2.833	3.632		

※ 市町は地域保健・健康増進事業報告、検診機関は石川県生活習慣病管理指導協議会における課題検討結果報告による。

※ 対象者数、受診者数、受診率は40～69歳、その他の指標は40歳以上を算定の対象としている。

※ 市町のがん発見率と陽性反応適中度は5年平均で算出。

※ 厚生労働省 がん検診のあり方に関する検討会報告書「がん検診事業のあり方について(令和5年6月)」別添6 に示された基準値を用いている。網掛けは基準値に達していない市町。

● 「受診率」

大腸がん検診の対象者のうち受診された方の割合です。高いことが望ましいとされています。

● 「要精検率」：要精検者/全受診者

受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、基準値は6.8%以下とされています。

● 「精検受診率」：精検受診者/要精検者

「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。高いことが望ましい値で基準値は90%以上とされています。

● 「大腸がん発見率」：発見大腸がん患者/全受診者 ※市町はH30～R4の5年平均

受診された方のうち大腸がんが発見された方の割合で、基本的に高ければ高い方が望ましい指標です。基準値は0.21%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

● 「陽性反応適中度」：発見大腸がん患者/要精検者 ※市町はH30～R4の5年平均

検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に大腸がんがあった方の割合で、基準値は3.0%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5年間の平均で算出してあります。

※ 「精検受診率」は基準値を下回るとは良くないとされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率、喫煙者の比率などによっても大きな影響を受けるため、下回れば必ず問題があるとは言えません。

また、「大腸がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。